

聴き合う関係づくりをめざす チェック表

実践しているところを鉛筆でチェックする。実践していないところは色ペンでチェックする。
「すべてを実践してください」というメッセージではありません。

(1) 教室における机の配置

- コの字型にする

(2) 斑の編成

- 4人斑 男女市松模様に配置

(3) 授業では

① 学習課題や主発問に取り組むとき

- 班の形になって考える。班で考えるのではない。考えるのは個人である。
- 次のことを指示している。
分からない時は必ず班の子に「ねえ、これどうするの?」と聞く。聞かれた子は必ずそれに^{こた}応える。

② 学級全体に向かって、学習課題や主発問に対する答えを求めるとき、

- 授業における学習課題や主発問に対して、学級全体に答えを聞くとき
「困っている人はいませんか?」「迷っている人はいませんか?」と聞く。
- 課題が感想や意見を書くといった場合の全体交流
 - 班内で全員が感想や意見を述べあう。
 - 全体にぜひ広めたい感想や意見があるという人・班に発表させる。

③ 全体交流での教師の言葉

子どもの発言に対して、つなぐ言葉だけを言う。原則、次のような4種類とする。

- 深める場合は、「関連してどうですか。」「意見をつないで。」
- 広げる場合は、「他はどうですか。」
- 発言者の声が小さかったときは、「今の意見は聞こえましたか。」
- 発言内容が分からないときは、「先生は今の意見が良く分からなかったなので、誰か言い換えて。」

(4) 学習課題

① 教科書程度の課題

- 教科書の問題と同程度の問題を使う。教科書と同じ問題にしない。課題の解き方が分からなければ、自分で教科書から解き方を学ぶ。
- 教科書程度の問題を数多く取り組ませる。
例えば、教科書程度の問題を黒板に3問書き、取り組ませる。早くできた人は教科書の問題に取り組ませる。更にできた人のためにプリントを用意しておく。答え合わせは、黒板の問題については解き方を含めて丁寧にする。教科書の問題やプリントは答えだけを言う。これにより、早くできた人が退屈することはない。(子どもを退屈にさせない。)力もつく。
- 解き方の説明を文で書かせる。
- 問題を子どもに作らせる。

② 子どもが夢中になって取り組む課題

- 既習内容を使った難しい問題
- 答えが複数あるもの (例:5つ以上書きなさい)
- 解き方が複数あるもの